

○ 水谷令子 富田寿代 (鈴鹿国際大)

目的 数々の環境問題を抱える中国における生活用水の使用実態を含む日常生活を調査することにより、生活に関わる水環境の現状と今後生じると予想される問題を検討する。

方法 鈴鹿国際大学の中国人留学生および西安外国語学院の学生を対象に郷里での日常生活についてアンケートをおこなった。

結果及び考察 調査対象の出身地は中国全体に広がっており、都市部出身者が7割以上であった。農村部では上水道がないところもあり、共同または個人で井戸を利用していた。生活用水の水質や水量に対する不安や不満が多く認められるが、水道施設が整備されている地域では洗濯機の普及率や入浴頻度も高く、生活の近代化が進んでいる。洗濯には合成洗剤や固形石鹼を使うが、食器は水洗いだけの地域もある。市販の合成洗剤はほとんどが有リンであるが、無リンや低泡性洗剤もあり、環境に対する配慮が進められつつある。近年、水道があっても個人または共同で新しく井戸を掘り、清浄な地下水を安価に利用しようという傾向があるが、中国の人口は多く、過剰揚水による地下水位の低下や水質悪化などが懸念される。また、都市部を中心としてほとんどの地域で生活ゴミは行政により回収され、家庭でゴミを分別することは少ない。辺境の農村部では生活排水や生ゴミ等を灌漑や堆肥などに利用したり、古着等を何らかに再利用するなど、無駄なゴミを出さない工夫がなされている。